

あ・も・じ・ろ・く・人・立 めだかの学校だより

平成30年11月1日

第102号

学舎：周智郡森町一宮

「一宮総合センター」

事務局：静岡県磐田市

家田 529-20

TEL:0539-62-6691

校長訓話

第一〇二回 校長 小栗 華

来年2月3日の節分に私のボランティア参加10回目となる「いわたゆきまつり2019」が開催され、今年も副実行委員長をさせていただいています。夏から仲間とゆきまつりにむけて活動しているところ、めだかの学校の校長に任命いただき、自己紹介がてら、これまでの経緯をお伝えいたします。

昭和59年に磐田市で4兄弟の末っ子として生まれ、高校卒業まで地元、大学4年間は東京で過ごしました。東京にいた当時は学生生活を楽しまつことも近隣住民との繋がりを感ぜられず、なんだか寂しい気持ちでいました。卒業後地元磐田に戻って1年経った頃、地元でなにか人の役に立てるようなことと新しい繋がりを求めて、当時流行っていたSNSを覗きました。そこに「くさち」という名前の男子が一生懸命募集を呼びかけている「いわたゆきまつり」のボランティアが目にとまりました。今之浦でや

るこのイベントは自分が子どもの時から知っているものでした。ボランティアは「若いいわたネットワーク(通称WIN)」という、磐田を盛り上げることを目的とした18歳から35歳までの年齢制限付きの団体が仕切っていました。“怪しい団体ではなさそうだから入ってみよう”そんな軽い気持ちで入ってみました。当時は私も少しお兄さんたちが仕切っていて、ゆきまつりの他にもまち美化活動をしたり、市内のイベントを手伝ったり、一人じやなかなか出来ないことを皆で集まりやっつけていく、元気で明るく楽しい雰囲気です。そんな活動をしています。WINの会員数は増減を繰り返していますが、ゆきまつりは今では毎年ボランティアが100名集まります。活動内容というよりも“メンバーの誰かに会ったら元気をもらえる”“自分とは異なる価値観に出会って面白い”そんなことを感じながら、活動を続けていくうちに段々とリーダーや理事など色々なところでも新しい経験をさせてもらうことになりました。文化振興会では榊原さんとの出会いもあり、私もめだかにな

ることができました。まさか校長先生になるなんて！職員会議もたくさんめだかたちが集まり、興味深く出席させていただきました。人と関わりあって生涯現役、私もそうなりたいと思いました。このように人との繋がりは同世代のWIN以外にもどんどん増え、知っている顔が多くいる街に住む安心感、街にはいろんな人がいること、人と関わることで生まれる新しい発見、どうしたら街や人と繋がっていきけるかを知っていくことになりました。どこにいても大丈夫だと学生時代の自分に教えてあげたいです。

まだまだ先だと思っていたWIN卒業まであと1年ちよつと、この先どんなことを広げ深めていくか日々妄想中です。今回のめだかの学校でもみなさまと一緒にイキイキしている先生方の授業を受けて、パワーをもらい、可能性を広げていきたいです。



めだかの学校伝言板

第102回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長／小栗華

教頭／長谷川智

用務員／大杉昌弘

給食係／大久保陽・村木謙弐・牧野久子・今村純子

山中幸子・竹野昇・小山展弘・石野省三

池田タキ江・中村やす代・大谷香代子

渡辺三ツ子(チーフ)

※お手伝いできる人はぜひ早めにお出かけを！

<学舎>静岡県周智郡森町一宮「一宮総合センター」

TEL:0538-89-7730(開校日のみ)

開校日／平成30年12月7日(金)6:20PMより

受付／大場敬子・大橋町代・埋田千聡・榊原幸雄(後見人)

26期通年テーマ：『今を感じつつ、新たな年は「ハヤブサ号」のように…』
今回のテーマ：「あすに向かって…“ひと”っておもしろい」

<時間割>●1時間目 国語 鈴木真知子 先生(浜松市)
「…、どこへいくの?」

●2時間目 算数 田村進治 先生(磐田市)
「ひとつ、ふたつ…、なにしてるの?」

●3時間目 家庭 富田久美子 先生(磐田市)
「教えて…、なにをするの?」

●給食の時間～えび芋三昧?～

9:30開校

めだかの動き

泳ぎ回るめだかたち

■「第16回全国まちづくり交流会 in 熊本玉名」へ行ってきました

7月27日～29日に熊本県玉名市で行われた第16回全国まちづくり交流会へ行ってきました。愛知県豊田市足助町でスタートしたこの交流会、第11回は森町でも開催され、今回は震災復興が進んでいる熊本県での開催となりました。

北は北海道南は九州と全国から174名が集まり、まちづくりについて語り合いました。久しぶりの再会にお互いの元気な顔を見て喜びあい、同窓会をしているような感じでもありました。

27日には前夜祭、28日には体験研修、午後には大交流会、そして29日には熊本県の各所の見学と盛りだくさんのメニューが用意されており、地元の方々の暖かい歓迎に感謝しました。めだかからのメロンとうもろこしの差し入れのアナウンスがされると皆さん大喜びでした。私は前夜祭に参加、静岡県が台風直撃との予報でやむなく途中で帰ることになりましたが、旧交を温めることができました。交流会に先立って、復興が進む熊本城などを見学してきました。熊本城は駅前から少し離れていて、昔懐かしい市電で20分くらい乗って市役所前で降ります。まずは市役所14階から全景を確認しました。一望する熊本城は思いのほか広く、工事の様子があががえしました。徒歩でも下から天守閣近くの加藤神社まで約30分歩きました。見えていても近寄らない天守閣に名城であることを認識しました。お城は工事の

真つ最中で完成が楽しみです。復興と旅程の無事を願い、加藤神社にお参りし、御朱印をお土産にしました。



次回、来年は福島県飯館村での予定、皆さん都合をつけて参加しましょう。

■動物愛護週間に思う

今どれ位の人がペットを飼っているだろうか？空前の猫ブームとかで、猫グッズや猫カフェ・ペットの為の人間顔負けのグッズやらで業界は賑わっている。だがその一方で、空前の捨て猫が出ていることをご存じだろうか？

遺棄される動物たちの殺処分を減らすべく、浜松市に数年前に「物愛護教育センター」が出来、知人の紹介で教育という視点から動物愛護の活動を始めた。そこで見えてきたのは、今起きている問題の全ては人間側の責任であるということだった。

有名人が飼って人気があるからとか希少性が高いとかで、特定の種類の犬や猫だけが高額で取引される社会を疑問に思う。犬や猫は自分が高額であるとか珍品であるとか関係なく生きていく。極端な言い方をすれば、別に人間に養ってもらわずとも彼らは生きていく。今問題視され敵視されている外来生物もそう。彼らは望んで日本にきたわけではない。人間が勝手に連れてきて、環境に適応したから繁殖してしまっただけの事だ。鹿や猪の害害生物も然り。人間側の都合だけで命に優劣をつけて良いのだろうか？人間に置換えれば簡単な話だ。

そもそも「動物愛護週間」を知っている

人はどれ位居るだろうか？かく言う私も活動を始める前は言葉は知っていても、それが何時なのかは正確に知らなかった。毎年曜日は関係なく9月20日からの一週間。今年は浜松駅構内で磐田市キララクターのシッペイ（犬代表）と猫カフェときわ屋のキララクターニャンポ（猫代表）と一緒に愛護週間の習と啓発活動をしてきた。動物を取り巻く環境を考えることは、私たち人間社会を見つめ直す良い機会と捕らえて欲しい。

（大島たまよメダカ）

■地方創生に向けた取り組み「三遠南信創作工芸村」への挑戦

浜松市天竜区二俣の一角で、140年の歴史がある古民家を活用し、ギャラリーと物産を販売する「マルカワの蔵 又水」をオープンして丸5年が経過しました。この間に出展、出店してくださった方の数は約800名、来蔵者は7万人余となつています。多くの優れた作品、匠の技に触れ、又ここでの出会いを機に各種の教室も始まり、生き甲斐作りに一役かって、文化醸成基盤が整いつつあります。

私達は今、長年あためてきた「三遠南信伝統工芸村構想」を「三遠南信創作工芸村」として、これまでの活動実績をもとに作家さん達の活動の場の拡大、ネットワーキ化を図りたいと計画しています。そうすることで三遠南信一帯の交流人口が増え、地方創生の基盤となり得るものと考えています。

このことを実現するために、センター的役割をする場として「マルカワの蔵 又水」に隣接する古民家を活用する準備を進めている所です。

（本島慎一郎・真弓メダカ）

■豊岡東交流センター祭り

磐田市敷地の豊岡東交流センターで、11月25日（日）午前9時半から『豊岡東交流センター祭り』が開催される。演芸や展示、食など楽しいコーナーがいっぱい。展示にはかまちよしろうメダカの4コママンガ『ごんちゃん』の原画も。野外では「めだかカレー亭」や、鈴木正士メダカの手打ちそば「正士庵」、深澤明男メダカらのおおか農研21メンバーによる「もちつき」。ロビーでは神原幸雄メダカ夫婦による「コーヒーション」や「リンデンバウム」（昼には生コーラスつき）。応援には田村進治メダカも加わる。どうぞ小銭を持ってお出かけください。問い合わせは豊岡東交流センター0539・62・6669または080・1612・9130パラメダカへ。

■第14回遠州横須賀霜月寄席

『第14回遠州横須賀霜月寄席』が、掛川市横須賀の清水家本宅で、11月18日（日）午後2時半開演で行われる。出演者は、落語家の瀧川鯉斗（浜松市出身、瀧川鯉昇門下）、マグナム小林（落語家立川談志門下、立川小談志を名乗る）、鏡味千代（落語芸術協会所属、太神楽曲芸会）の特徴ある三人。どんな寄席になるのか楽しそう。木戸銭は2000円（前売り）、お茶券つき。問い合わせは0537・48・0190掛川観光協会横須賀支部へ。

■遠州森町発 第27回町並みと蔵展秋

「第27回町並みと蔵展秋」が、11月24日（土）～25日（日）の2日間、午前10時～午後4時まで森町の本町、中横町、新町の町並みと蔵を中心として開催される。町並みには、古着、骨董、絵画、民芸品、お食事、地場産品のお店が並び、和服の方には無料の人力車の町並み散歩もある。24

日(土)午後1時から2時まで、本町の西光寺本堂で、「明治150年と森の町」の講演がある。入場無料。問い合わせは榊原淑友メダカ090・1472・6189へ。

『人・ひと・ト』だより

●埼玉県草加市の藤田久枝メダカ。草加市初のちんどんチーム『一丁目一番地』を立上げ、施設を回って笑顔笑顔でハリキッテいる。潤ちゃん(故藤田潤吉メダカ)に移された『ちんどん病』は治りません、だって。

●浜松市の城内実メダカ。10月の内閣改造時に環境副大臣に指名される。地域の芸能や環境に強い関心をもっており、よく歩いてきたことを思えばまさに適任。今度は日本ばかりでなく外交も生かした国際的環境問題にも取り組む。近年の地域温暖化によるとのめられる各災害の多発：期待しています。

●浜松市の加藤真知子メダカ。この8月に結婚した。だって。加藤から鈴木真知子に、新居は細江町。バイクで林道を駆け巡るのが大好きとか。今度はご主人と一緒に、「いいア」と独身メダカ生。

●浜松市の中村やす子メダカ。毎日3分間、ムックリの練習をしている。大同窓会の時は思っていた半分もできなかったが、今は手盛り評価でかなり良いできになっている。オファー待ってます、だって。

●磐田市の今村純子メダカ。最近元の仕事仲間、県職のOBたちと遺しておきたい各地の年中行事や伝統食の冊子づくりの編集に忙しい、と。あれ。新聞に今村さんが10月27・28日の見付ちっちゃな文化展の看板づくりのお手伝い。だって。

●千葉市の鈴木厚正さん。急ぎすぎだよ人類は。ゆるやかなネットワークを目指す『雑報繩文』の編集・発行人。毎月2回発

行して、2018年10月夕刊号で、何と『500号』。寄稿執筆者の文章はパソコン打ちであるが、その他厚正さん絡みの文章は全て手書き。それも24頁。印刷から発行までも。凄いに尽きる。磐田市の鈴木正士メダカのところには毎月二泊三日、大平地区の山の下刈りや茶畑、そば畑などの手入れに、仲間と一緒に汗をかいている。12月5日(水)14時から17時まで・東京の「チサンホテル浜松」で、『雑報 繩文』500号発行をみんなで祝う会を開く、だって。

●磐田市の小山展弘メダカ。小林佳弘メダカ発行の月刊地域文化情報誌「NEOぱんぷきん」に毎月『好きです「遠州」!』を、執筆している。「今川了俊―遠州が誇る郷土の偉人達の気概」などを書いている。歴史が大好きというだけあるね。

●新城市の清水良文メダカ。めだかの学校大同窓会で和太鼓「志多ら」息吹全国ツアーも東京公演で終わり、10月6日・7日に東栄町の「のき山学校」で、志多らファン感謝祭「のき山市」を行った。合唱劇「カネト」佐久間公演を12月16日に天竜区佐久間の民話の郷会館で行う、と。

●掛川市の鳥山剛メダカ。「使用済み切手がたくさんあるから、「ちっちゃな文化展」の時、家によって持っていて」と、ショートメール。使用済み切手、県ボランティア協会の「タイの像を救う」活動の応援に事務局で何度か送っている。ありがとう。

《新人生紹介》

●浜松市の長谷川智メダカ。朝日新聞浜松支社の記者で、98回めだかの学校を取材、第100回記念大同窓会にも出席。第101回めだかの学校より入校。実家は磐田市竜洋。山下安範メダカとは同級生、とか。推薦は榊原幸雄メダカ。

●袋井市の竹野昇メダカ。元高校の英語教師。退職後、教諭時代のクラス新聞などをまとめた『若者へのメッセージ』クラス担任として生徒に贈った記録の本を2012年5月に発行。38年間の先生としての思いが詰まっている本を頂いた。現在は袋井市議として活躍。推薦は鈴木武史メダカ。

●島田市の原田豊子メダカ。幼なじみの喜瀬川さんから話を聞いて「私もぜひ」とお願いして入校。趣味は歌を唄うこと、動物を可愛がること、だって。推薦は喜瀬川はつ枝メダカ。

●森町の大場弘一メダカ。新聞で紹介された活動に敬服しました。生ある限り人の話を聞くことにしています、と。詩吟(岳苳流)総伝(平成14年9月)、煎茶手揉製茶技術県保存会会員、倉開流。無形民俗文化財茶匠(平成22年12月)、84歳。うん、メダカ生最高齢?老いてますます盛ん。

●森町の大場きみメダカ。弘一メダカの奥様。生け花は古流。フラワーアレンジメント。詩吟(岳苳流)総伝。ご主人と一緒にとられた、と。いや〜ご夫婦で吟詠、いいですねえ。推薦は共に榊原淑友メダカ。

《訃報》

愛知県東栄町の伊藤静男メダカが、10月24日11時20分ごろ亡くなりました。享年80歳。葬儀告別式は10月27日に執り行われました。6月2日の、「めだかの学校開校100回記念大同窓会」では、みんなと元気に語らっていたのに…。心からご冥福をお祈りいたします。
x x x x x x x x x x
今回は紙面の都合でこれまで。

《めだか春秋》

給食で思うこと

給食は、「めだかの学校」でのお楽しみの一つです。毎回給食当番の方が、早くから来て、和気あいあいと渡辺チーフの指導の下作業をします。それぞれおしゃべりをしながらの食事作りは、楽しいものです。この皆で作る手作りのお弁当を、違う視点から見ると、食材は、米、ジャガイモ、サツマイモ、海老芋、ネギ、キャベツ、トウモロコシ、柿等々、地産地消のものが大半を占めています。調味料は、砂糖、醤油、塩、酢、マヨネーズなど皆様の台所にある基本的なものばかりです。こうして作られた給食は食品添加物がほとんど入っていない、体に良い食事です。

このところ食品添加物の怖さが気になっている私です。お店で売っている加工食品のほとんどに、食品添加物が入っています。弁当や総菜の原材料のところを見てください。台所にはない、調味料(アミノ酸等)、ソルビン酸、着色料、ステビア、サッカリン、酸化防止剤、酸味料、増粘多糖類、ポリリン酸ナトリウム等々の記載があります。食品添加物は、「食品を長持ちさせる」「色形を美しく仕上げる」「品質を向上させる」「味をよくする」「コストを下げる」など、「魔法の粉」と言われています。一般的な日本人が摂取する添加物の量は、1日平均10グラム、年間4キログラムになるといわれています。添加物の「毒性」が問題になりますが、「複合摂取」については誰も明らかにしていません。「魔法の粉」に頼らない、時間はかかれますが、手作りの体に良い食事作りを、心がけてみませんか? (鈴木偉代メダカ)

※お知らせ
めだか春秋はリレー形式で。文字数は18文字37行以内。第103回めだか春秋は、高田正人メダカ。お楽しみに!



■衆生を救う唯一の仏「遠江の地藏菩薩」出版

月刊地域文化情報誌「NEOばんがきん」の発行人の、磐田市の小林佳弘メダカ。11月に衆生を救う唯一の仏「遠江の地藏菩薩」を自費出版。

「ばんがきん」を創刊して40年。近郊各地史跡や遺跡、神社仏閣などを訪れて見聞し、「遠淡海今昔物語」や「いわたに住みたくなる本」「続いわたに住みたくなる本」「姫街道『本坂道』今昔ものがたり」などを出版。歩いた40年間の蓄積は凄しい。今度の「遠江の地藏菩薩」は、150以上の地藏さんの話や、道祖神などを網羅している。B6判、300頁、税込3200円、発行部数500部。また「出版披露と読者の出合いの夕べ」を、11月18日(日)午後5時から磐田市浜部の「醍醐荘」で行う。

■事務局だより

季節は秋。食欲の秋。読書の秋。家の周りは次郎柿の柿色で染まっている。今年夏は高温と台風の影響などで規格外品が多いようだ。

さて、第101回めだかの学校は、30年9月7日金曜日、26期の第1回目である。校長は若手の草地博昭。教頭は喜瀬川はつ枝。用務員は永野貴嗣だったが、都合で欠席のため、村木謙式メダカに代役をお願いする。早速のハプニング。『鐘がない!!』どこを探しても『100回記念同窓会の時は使ったよね。そのあとどうした?』「エーッ、みんな分かんない」急拠村木

用務員のスマホの似た音で始める。いやはやこちらも代役。教頭の進行で、校歌斉唱、長谷川智、竹野昇、原田豊子新入3メダカの自己紹介。建学の精神の唱和。給食はお土産つきのマツタケ御飯。草地博昭校長の訓話。10日前に退院したばかりとあってちよつとやせた感じ。『次世代に残したいもの』と、江戸中期の米沢藩主、藩の困窮を立て直した「上杉鷹山」の話や、魅力が高い文化が高いと感じる街の共通点には地域が輩出した偉人や言葉を大切に、子どもへの教育や生涯教育にその精神が根付いている所だ。福井には橋本佐内、鹿児島には「郷中教育」など、またこの街の「次世代に残したもの」は、めだか生の存在であり、生涯学び続ける姿勢と精神、「継続は文化になる」と語る。

授業は、川島安一先生の、期初特別授業で「古希爺、砂漠を走る」。「今70歳、このあと10年は小説を書こう」と思っている、と。小説の題材は砂漠?そのためのナンビア共和国で開催される七日間で、257キロの砂漠を走る大会に参加。参加選手の最高齢と。ナンビア共和国は人口220万人、黒人50%、郷土人40%、その他10%、国土のほとんどが砂漠、建物はドイツ統治時代の面影の残っているものが多い。砂漠特有の昼間の暑さと夜の寒さ、大きい寒暖の差、そして砂の巻きなど、厳しくも激しい競技の状況をプロジェクト



ターを使って解説。共に乗り越えた出会いの素晴らしさも。人生は挑戦!、と。

私語飲食全て禁止の『次回三役発表』。第102回は12月7日。校長小栗華、教頭長谷川智、用務員大杉昌弘。二一年以内入校の3人、まさに未知数:楽しみです。引継ぎに草地博昭校長が早退したので、代役は高田正人メダカ。給食当番、いつものメンバーが多いが、ハイと手を上げた新入生の竹野昇メダカ、嬉しいね。午後9時、いつものように大きな輪をつくって「今日の日はさようなら」を歌いつつ握手してお別れ:元気に再会を!

第102めだかの学校職員会議を9月27日(木)19時から学舎で開く。夕食はなんと温かなトリ肉の釜めしと味噌汁。いや美味しかった。もちろん小腹。第102回は12月7日(金)校長は小栗華メダカ。教頭は長谷川智メダカ。用務員は大杉昌弘メダカの入校1年以内の3人とほかにはベテラン職員10人の13人。美味しいものを食べると意見も活発になるのか、「加藤真知子さんは結婚して鈴木真知子、最少年だし先生だね。」に始まって、「若室の古民家で富田久美子さん、何やってるの?」「子育てママの応援サロンかなア。先生に。」「となると、高齢者で高齢者の色々な手伝いをしてる田村進治さんだね。」と。1時間目国語「どこへいくの?」鈴木真知子先生。2時間目算数「ひとつふたつ:なにしているの?」田村進治先生。3時間目家庭「教えて:なにをするの?」富田久美子先生。今回のテーマは『あすに向かって:ひとつおもしろい』に決まる。

■第26期の受付をしています

第26期は平成30年9月1日から31年8月31日までです。毎年度入校手続きが

必要です。未提出の生徒には再度申込書をお送りします。開催日前までに必ず申込書に1000円を添えて提出してください。手続きがなされない生徒は名簿からはずれ自主退学となります。ご注意ください。新しく入校を希望される方がいましたら事務局までご連絡下さい。申込書と資料をお送りします。

■今回も「めだかの学校だより」遅れてごめんなさい。

いつもお手伝いいたいています鈴木武史メダカ、石野省三メダカ、伊藤英雄メダカ、本島慎一郎メダカ、村松達雄メダカ、まとめてくださる間瀬亮太メダカ、発送などのお手伝い神原明美さんありがとう!。

■めだかの学校だよりの原稿を!

今回の発行は、31年2月1日予定。締切りは、1月15日。みなさんの日頃の活動、イベントの開催など、情報を手紙かFAXで待っています。メールの方は、mabuchi-trd@yr.tnc.ne.jp 間瀬亮太090・50099・099866です。(メールの方は割付の関係もあるので「報を」)

■めだかの学校の事務局

〒438・0105静岡県磐田市家田529番地20 榊原幸雄方 TEL 0539・62・6691 (FAX同じ)
※学舎「一宮総合センター」周智郡森町一宮3150。電話 0538・899・7730 開校日の午後4時以降のみ使用可。携帯 080・1612・9130

